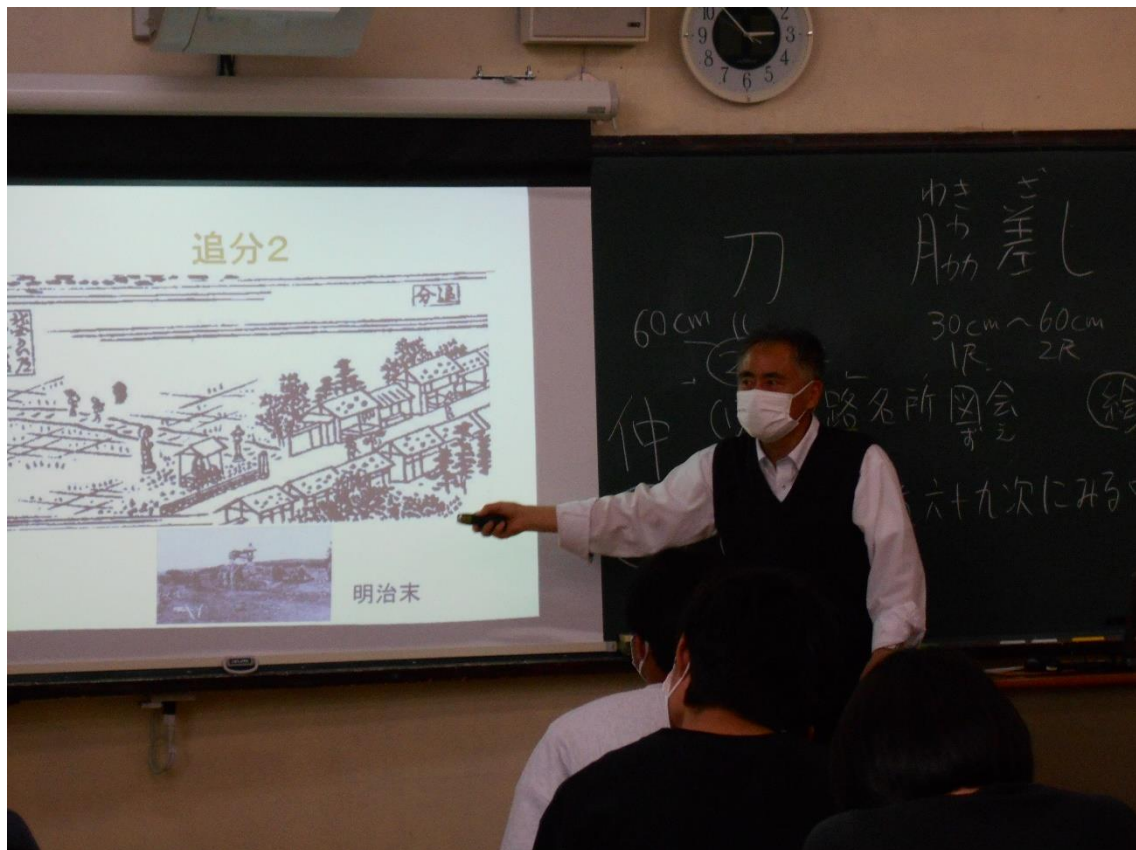


中山道

—絵師の目から中山道を見る—

長野県立歴史館 小野 和英先生

実施日：令和4年5月16日（月）



長野県立歴史館から小野和英先生を講師に招き、「中山道—絵師の目から中山道を見る—」というテーマで講義をしていただいた。『木曾路名所図会』を使い長野にある宿場を中心に解説をいただいた。そこに描かれている絵には、さまざまな情報が描き込まれている、それを丁寧に見ていくと当時の風俗を見ることができる、また描かれている風物が現在もその地に残っているということであった。授業の後半は、中山道を舞台に描かれた色鮮やかな浮世絵を見せていただいた。

絵に描かれている複数の情報・事柄を組み合わせることによって、当時の様子が想像できることの面白さを発見できた。服装や持ち物によって描かれている人物の身分や季節までも想像することができ、絵師の緻密で粋な仕事ぶりに驚かされた。

【生徒の授業日誌より】

・絵を見て読み取ることの大切さがわかりました。人によって感じ方は違って、人の意見を聞いたりするのはとても楽しかったです。昔の人が描いて残してくれた絵から何をしているのだろう…と読み取るのがおもしろかったです。昔の人がいろいろとすごいなと思いました。

・中山道は前、中仙道と書かれていたことを初めて知った。今とは違って、昔はいろいろ物が古くて生活や風景がぜんぜん違うので大変だと思った。1枚の写真をじっくり見たらいろいろなことがわかった。昔でも客引きがあることにびっくりした。

・なにげない昔の絵にいろいろな意味が隠れていて、細かいところまで描いてあってすごいと思いました。昔は馬！ってイメージが強かったけど、牛も多かったから意外だなんて思いました。昔にも客引きがあったんだあ〜。60cm以上を刀と呼ぶことを知らなかったのでびっくりしました。

・昔は悪い人もたくさんいて、脇差しを持つほど身の危険があったのを知りました。そして、人を運ぶ人の服装が裸に近かったのでびっくりしました。昭和のころ、須原宿の用水路の水を、馬の水飲みや足を洗うことに使われる水だったことを学びました。今でも千曲川に船つき石が残っているのを聞いて歴史を感じました。

・昔（明治）のときは瓦が高かったから、代わりに屋根に石をたくさん置いてあった。下諏訪の温泉には上湯と下湯があって、下湯は外から丸見えだったけど、上湯にはちゃんと脱衣所があって、これが格差社会なのだなーと思いました。200年も前に描かれた絵なのに細かく描いてあってストーリー性があったておもしろかったです。